

阪神・淡路大震災から 5 年

～被災地神戸の復興はどれだけ進んだかを統計から見る～

はじめに

1995.1.17 あの悪夢の日から 5 年が経過し、仮設住宅は全て撤去された。しかし被災地では今も復興へ向けた様々な取り組みが行われている。神戸市での被害は甚大なものであったが、この 5 年間で同市の回復がどの程度進んだかを、人口・世帯数、建物再建、産業、生活などの統計指標をもとに整理した。

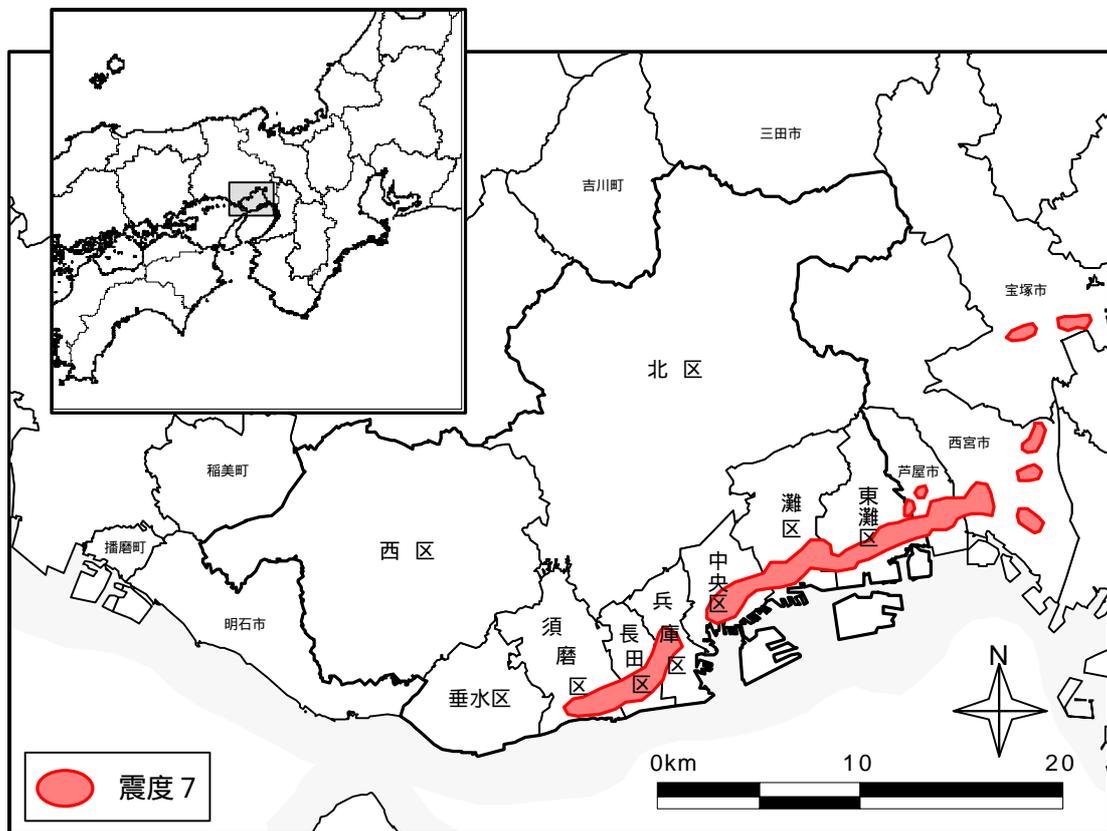


図 1：神戸市地図

斜線が入ってある地域は気象庁震度 7 の地域（いわゆる「震災の帯」）である。

表 1：神戸市各区の人的被害・建物被害

単位：人、棟数

	人的被害		建物被害			
	死亡者数	負傷者数	全壊	半壊	全焼	半焼
神戸市	4,569	14,679	67,421	55,145	6,965	80
東灘区	1,471	3,383	13,687	5,538	327	22
灘区	933	1,112	12,757	5,675	465	2
中央区	243	3,782	6,344	6,641	65	17
兵庫区	555	1,755	9,533	8,109	940	15
北区	12	817	271	3,140	1	
長田区	918	533	15,521	8,282	4,759	13
須磨区	401	637	7,696	5,608	407	9
垂水区	25	1,020	1,176	8,890	1	2
西区	11	1,640	436	3,262		

出典：データこうべ

注 1：死亡者数・負傷者数は平成 10 年 12 月 25 日時点

注 2：倒壊状況は平成 7 年 12 月 22 日時点

注 3：火災状況は平成 8 年 2 月 1 日時点

1. 景観

三宮にある神戸市役所から中央区の山側および海側を撮影した写真を以下に掲載する。
神戸市の中心地である三宮の町並みは震災の傷跡を感じさせないように見える。



図 2：神戸市役所より山側を撮影（平成 12 年 1 月 27 日撮影）



図 3：神戸市役所より海側を撮影（平成 12 年 1 月 27 日撮影）



震災前：国土地理院「三宮」1万分の1地図（平成4年10月1日発行・平成3年10月現地調査）



震災後：国土地理院「三宮」1万分の1地図（平成12年2月1日発行・平成11年6月現地調査）

図4：三宮の変化

2. 人口・世帯数の回復

表2より、神戸市全体では、人口・世帯数ともに平成8年3月を最低値としてその後は増加傾向にあることがわかる。人口98.3%、世帯数104.1%とある程度回復したように見えるが、地域差は大きい。区毎に見ると、人口については、兵庫区・長田区・須磨区・垂水区で減少の一途をたどっている。東灘区・灘区・中央区でも震災前の人口まで回復していない。震災前より人口が増加しているのは北区・西区だけである。なお、人口の変化には自然増減（生死者数の差）と社会増減（転出転入者数の差）があるが、人口減少の9割が地域からの転出による社会減である。世帯数では、長田区が減少の一途をたどっている。灘区・兵庫区でも、震災前の世帯数まで回復していない。震災前より世帯数が増加しているのは、東灘区・中央区・北区・須磨区・垂水区・西区である。人口・世帯数について最も減少が著しいのは長田区である。平成11年3月時点で、人口は震災前の81.5%、世帯数は震災前の87.3%にまで低下した。

表2：人口および世帯数の推移

平成6年3月を100とする

平成	人口						世帯数					
	6年 3月	7年 3月	8年 3月	9年 3月	10年 3月	11年 3月	6年 3月	7年 3月	8年 3月	9年 3月	10年 3月	11年 3月
全国	100.0	100.3	100.5	100.8	101.0	101.2	100.0	101.3	102.7	104.2	105.7	107.2
神戸市	100.0	98.5	97.3	97.5	97.9	98.3	100.0	99.3	98.9	100.3	102.2	104.1
東灘区	100.0	94.9	90.9	92.0	95.2	96.9	100.0	96.1	92.6	94.8	99.9	102.5
灘区	100.0	94.3	89.1	89.4	91.0	92.7	100.0	95.4	90.2	91.6	94.6	97.8
中央区	100.0	96.4	93.7	92.8	92.7	93.8	100.0	97.6	95.7	96.1	97.6	100.8
兵庫区	100.0	95.5	91.0	90.0	89.9	89.5	100.0	96.8	92.8	93.2	94.6	95.2
北区	100.0	102.7	105.6	106.7	106.5	106.5	100.0	103.9	108.9	111.3	112.6	114.0
長田区	100.0	94.2	87.0	84.5	82.8	81.5	100.0	95.8	89.5	88.3	87.5	87.3
須磨区	100.0	98.0	96.2	95.3	94.2	93.7	100.0	99.4	98.7	99.8	100.5	102.0
垂水区	100.0	99.6	99.7	98.4	97.0	96.6	100.0	100.7	102.3	102.5	102.3	103.8
西区	100.0	104.7	110.3	114.1	117.3	119.1	100.0	105.7	113.9	119.4	124.3	127.8

出典：住民基本台帳

網掛けを入れた部分が最低値である

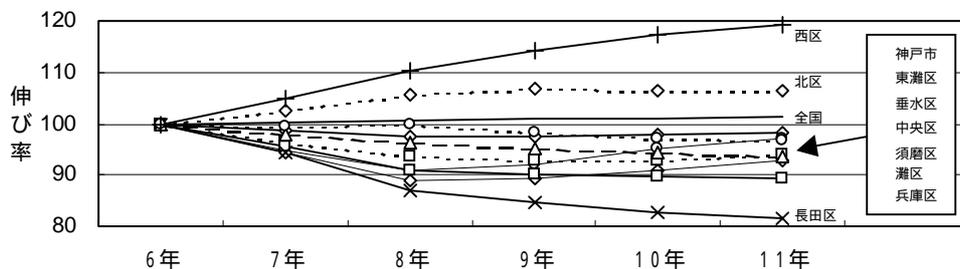


図5：人口の推移

3. 建物再建状況

神戸復興誌では回復率を次の式で定義している。

$$\cdot \text{回復率}(\%) = (\text{震災時戸数} + \text{完成予定戸数(累積)} - \text{滅失戸数}) \div \text{震災時戸数}$$

現時点の住戸数が正確に把握出来ないため上記のような指標を使用しているものと思われる。

表3より、神戸市全体では、人口・世帯数の変化と相似的であることがわかる。平成7年12月には被害の軽微だった山麓部を中心に震災時を上回る住戸数となっている。その後も比較的順調に住宅の建設は進み、平成9年12月の時点では長田区・須磨区を除き震災前住戸数のレベルを上回る回復を見せている。さらにほぼ4年後の平成10年12月時点では、最も遅れている長田区では81.5%であるが、神戸市では104.7%と震災前の水準を上回る結果となっている。

棟数ベースで見ると、平成10年12月時点では神戸市では95.5%と震災時点の棟数に戻っていないことがわかる。棟あたり戸数比が増えているということから、集合住宅の割合が増えていると推測される。

表3：建物再建状況の推移

単位：%

平成	戸数ベース回復率				棟数ベース回復率			
	7年 12月	8年 12月	9年 12月	10年 12月	7年 12月	8年 12月	9年 12月	10年 12月
神戸市	88.1	94.2	100.5	104.7	84.8	90.0	93.2	95.5
東灘区	79.2	89.9	101.2	106.4	67.3	77.8	82.6	85.4
灘区	82.9	95.7	105.4	112.2	67.9	77.3	81.6	84.2
中央区	86.0	94.0	105.1	112.8	80.4	85.8	89.0	91.0
兵庫区	86.1	92.8	100.3	105.5	76.6	81.8	84.9	87.0
北区	100.3	105.3	112.4	116.4	99.0	102.9	106.1	108.9
長田区	66.1	72.1	76.9	81.5	65.5	71.9	75.3	77.8
須磨区	86.3	91.2	94.7	97.5	82.5	87.7	90.6	92.7
垂水区	97.7	99.7	102.2	104.8	96.6	98.9	100.9	102.8
西区	100.0	103.5	107.1	109.4	99.8	102.6	105.0	106.9

出典：神戸復興誌

$$\text{回復率}(\%) = (\text{震災時戸数} + \text{完成予定戸数(累積)} - \text{滅失戸数}) \div \text{震災時戸数}$$

4. 産業の回復

工業・地場産業・商業・観光について神戸市の統計を見ていく。

4.1 工業

表4は製造品出荷額とその伸び率（平成9年÷平成5年）である。神戸市では平成9年において震災前より出荷総額は8%減少している。全国では同指標で4%増である。

区毎に製造品出荷額を見てみると、震災前より増加しているのは北区・西区だけで、大きく減少（額・率ともに）しているのは中央区・長田区である。

表4：製造品出荷額

単位：億円

平成	5年(a)	7年	8年	9年(b)	b/a(%)	b-a
全 国	3,111,990	3,060,300	3,130,680	3,230,720	104	118,730
神戸市	31,979	27,667	27,583	29,326	92	-2,653
東灘区	6,196	5,320	6,025	6,053	98	-143
灘 区	914	702	610	649	71	-265
中央区	4,893	3,281	2,908	3,344	68	-1,549
兵庫区	10,261	9,484	9,431	10,044	98	-217
北 区	448	418	448	848	189	400
長田区	3,073	2,069	2,220	2,137	70	-936
須磨区	588	294	330	319	54	-269
垂水区	242	201	180	194	80	-48
西 区	5,364	5,897	5,431	5,738	107	374

出典：神戸市統計書

注1：従業員4人以上の事業所

注2：平成6年のデータは得られていない

次に表5の商品別製造品出荷額の伸び率を見てみる。

神戸市で平成9年において震災前より製造品出荷額が増加しているものは、飲料・たばこ・飼料、石油製品・石炭製品、窯業・土石製品、非鉄金属、一般機械器具、電気機械器具、精密機械器具である。

逆に落ち込みの見られる商品も多く見られる。しかし、神戸市の落ち込みが震災が原因なのか不況が原因なのかわからない。そこで全国の伸び率との比較を行った。「平成9年÷平成5年」の指標について神戸市と全国を比較する。衣服・その他の繊維製品、パルプ・紙・紙加工品、ゴム製品で、神戸市は全国計より約30%以上低い。これらは震災の影響が特に大きかった産業と思われる。

表5：商品分類別 製造品出荷額 伸び率（平成9年 / 平成5年）

単位：%

	伸び率		
	神戸市(a)	全国(b)	a-b
総 額	91.8	103.8	-12.0
食料品	89.0	98.4	-9.4
飲料・たばこ・飼料	104.5	102.7	1.8
繊維工業品	54.7	60.1	-5.4
衣服・その他の繊維製品	75.2	106.4	-31.2
木材・木製品	76.3	92.0	-15.7
家具・装備品	92.1	95.7	-3.6
パルプ・紙・紙加工品	72.2	101.7	-29.5
出版・印刷・同関連品	86.9	105.8	-18.8
化学工業品	79.2	105.7	-26.4
石油製品・石炭製品	102.5	112.7	-10.2
プラスチック製品	89.4	100.6	-11.2
ゴム製品	52.4	98.5	-46.1
なめし革・同製品・毛皮	54.8	77.2	-22.4
窯業・土石製品	174.7	99.5	75.1
鉄鋼	80.3	97.5	-17.2
非鉄金属	106.3	117.1	-10.8
金属製品	78.4	96.8	-18.3
一般機械器具	102.5	111.7	-9.2
電気機械器具	106.7	115.9	-9.2
輸送機械器具	98.9	100.8	-1.9
精密機械器具	113.0	100.3	12.7
その他の製品	75.9	83.3	-7.3
その他	102.7	97.4	5.3

出典：神戸市統計書、日本統計年鑑

注：従業員4人以上の事業所

4.2 地場産業

神戸市の地場産業としてケミカルシューズと清酒製造を見る。ケミカルシューズの生産量は大幅減少し、平成10年になってもまだ震災前の7割である。長田区の被害の大きさ・復興の遅れを物語っている。清酒庫出数量では平成7年は平成6年の91.3%とあまり落ち込みは見られない。これは国・県・市の助成措置など（復興基金からの補助金・イベントの後援）により早期復旧ができたからである。むしろ平成9年以降に落ち込みが見られる。

表6：地場産業の復興状況

平成6年を100とする

平成	6年	7年	8年	9年	10年
ケミカルシューズ生産量	100	43.2	55.4	63.2	69.5
清酒庫出数量	100	91.3	93.5	86.8	82.0

出典：「創造的復興のつどい」配付資料

4.3 商業

表7より、百貨店の商品販売額は平成7年に大幅に減少しており、平成9年においても平成6年の販売額をまだ下回っていることがわかる。逆にスーパーは平成7年の減少幅は小さく、平成8年の時点で平成6年の販売額を上回った。なお、百貨店・スーパーどちらもほぼ全ての項目で平成7年が最低値である。百貨店では家庭用電気機械器具が、スーパーでは家具が震災以後減少し続けている。

伸び率（平成9年／平成6年）の指標について神戸市と全国を比較すると、神戸市の方が百貨店・スーパーともに低い。（神戸市（百貨店：86,スーパー：109）、全国（百貨店：101,スーパー：114）。）神戸市では、百貨店の落ち込みが大きいようである。

表7：百貨店およびスーパーの販売額の推移

（神戸市）

単位：億円

平成		6年(a)	7年	8年	9年(b)	b/a(%)	b-a
百貨店	商品販売額	3,154	1,998	2,480	2,718	86	-436
	紳士服・洋品	284	159	213	245	86	-39
	婦人・子供服・洋品	846	481	643	799	94	-47
	その他の衣料品	128	65	77	86	67	-42
	身の回り品	373	209	297	285	76	-88
	飲食料品	770	618	657	679	88	-91
	家具	125	74	93	104	83	-21
	家庭用電気機械器具	25	22	19	17	68	-8
	家庭用品	117	87	107	113	97	-4
	その他の商品	395	230	301	307	78	-88
スーパー	商品販売額	2,317	2,135	2,384	2,519	109	202
	紳士服・洋品	118	85	89	86	73	-32
	婦人・子供服・洋品	219	182	205	210	96	-9
	その他の衣料品	115	100	121	119	103	4
	身の回り品	95	79	98	98	103	3
	飲食料品	1,071	1,085	1,111	1,168	109	97
	家具	59	50	45	43	73	-16
	家庭用電気機械器具	162	128	145	156	96	-6
	家庭用品	172	179	182	250	145	78
	その他の商品	291	234	377	377	130	86
商品券	15	13	13	12	80	-3	
商品券	4	6	6	6	150	2	

出典：神戸市統計書

(全国)

単位：億円

平成		6年(a)	7年	8年	9年(b)	b/a(%)	b-a
百貨店	商品販売額	110,250	108,250	110,390	111,090	101	840
	衣料品	55,360	54,360	55,810	56,260	102	900
	飲食料品	25,130	24,920	25,220	25,620	102	490
	その他	29,760	28,960	29,360	29,220	98	-540
スーパー	商品販売額	107,680	115,150	119,370	123,040	114	15,360
	衣料品	29,940	31,000	31,310	30,910	103	970
	飲食料品	49,450	53,670	55,950	58,700	119	9,250
	その他	28,280	30,480	32,110	33,430	118	5,150

出典：日本統計年鑑

4.4 観光

ホテルの稼働率と観光客などから回復程度を見てみる。主要ホテル稼働率は平成7年に低下して平成8年に回復していることがわかる。平成11年には再び稼働率が低下している。

地域別観光客数は平成7年に大幅に減少し、平成8年にはかなり回復していることがわかる。しかし神戸港、六甲・有馬、西北神はまだ回復途上にある。

表8：主要ホテル客室稼働率

単位：%

平成	6年	7年	8年	9年	10年	11年
客室稼働率	68.8	60.4	67.5	66.7	64.1	57.6

出典：「創造的復興のつどい」配付資料

表9：観光客数の推移

単位：万人

平成	6年(a)	7年	8年	9年	10年(b)	b/a(%)	b-a
都市部	682	204	528	618	700	103	18
神戸港	366	95	215	246	269	73	-97
六甲・有馬	904	327	649	651	633	70	-271
須磨・舞子	344	157	251	257	324	94	-20
西北神	144	97	110	108	110	76	-34
ルミネリエ		194	309	396	492		

出典：「創造的復興のつどい」配付資料

5. 生活

収入・支出・有業人員という指標について神戸市の統計を見ていく。この「有業人員」とは、1世帯のうちの職についている人数のことである。

表10より、全世帯ベースでの有業人員は平成6年平均で1.43であったが、平成10年平均では1.33であることがわかる。いまだ震災前の状態まで回復していない。有業人員の落ち込みは神戸市の方が全国より大きい。

表10：有業人員（全世帯）

平成		6年	7年	8年	9年	10年
神戸市	有業人員	1.43	1.32	1.31	1.35	1.33
	世帯人員	3.25	3.20	3.24	3.29	3.22
全国	有業人員	1.60	1.59	1.54	1.54	1.52
	世帯人員	3.47	3.42	3.34	3.34	3.31

出典：神戸市統計書、日本統計年鑑

表11は勤労者ベースでの実収入・消費支出である。神戸市では平成7年に実収入・消費支出ともに増加している。

表11：年平均1ヶ月間実収入・消費支出（勤労者世帯）

平成		6年平均	7年平均	8年平均	9年平均	10年平均
神戸市	実収入	520,099	618,295	569,956	580,768	574,706
	消費支出	357,114	391,274	357,475	371,046	366,387
全国	実収入	567,174	570,817	579,461	595,214	588,916
	消費支出	353,116	349,663	351,755	357,636	353,552

出典：神戸市統計書、日本統計年鑑

注：消費支出には税金は入っていない

図6は消費支出の内訳(神戸市・全国)である。神戸市では消費支出は平成7年以降増加しており、目立つものは平成7年の住居に関する支出の増加である。全国では、平成6～9年の間ほぼ変動はない。

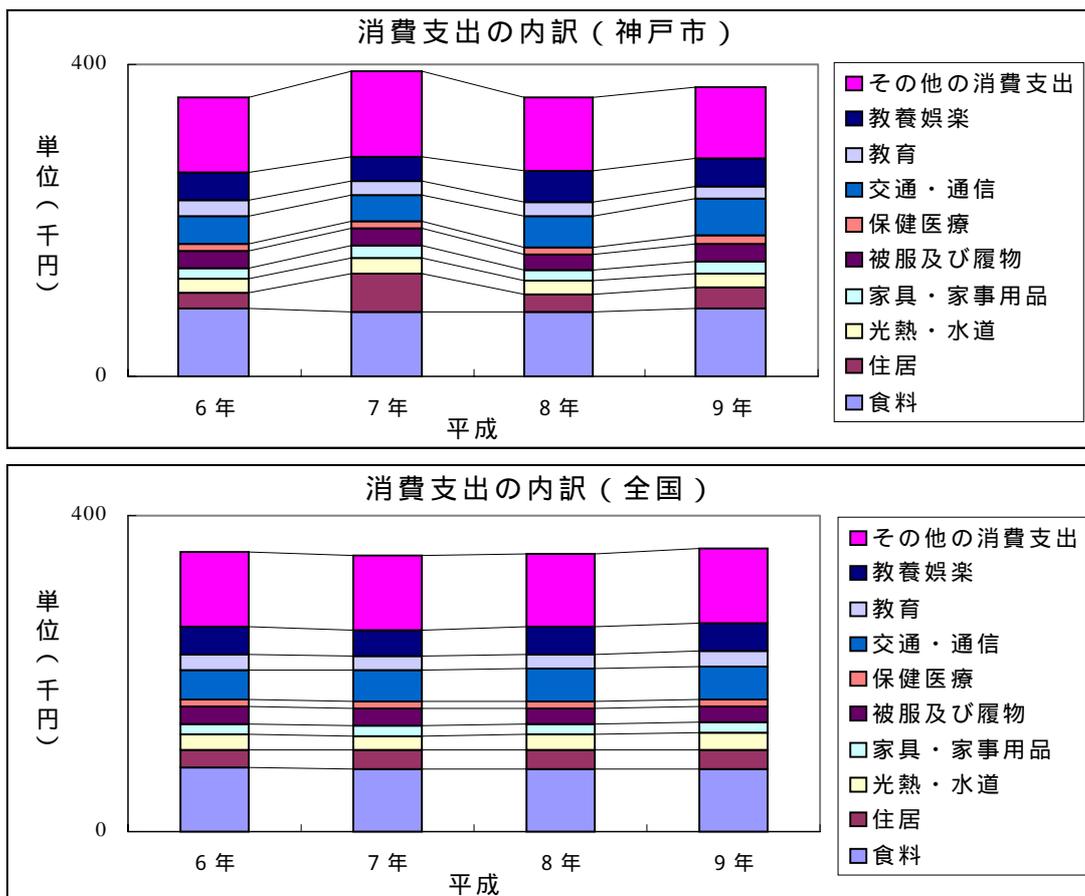


図6：消費支出の内訳

おわりに

国・県・市として震災復興にあたり様々な施策を行っているが、あくまでそれは都市としての表側のものであり、産業の復活・雇用の創出など様々な問題が残っていることが神戸市の各種統計より読みとれる。

なお、読売新聞社が阪神大震災5年目特集として行った5000人アンケート結果があり、震災後の収入が「増えた」と答えた人が8.2%、「減った」:(約1割減~ほとんどゼロの合計)と答えた人が33.0%である。震災による仕事の変化については、失業中が4.8%、休業・休職中が4.6%、転業・転職したが5.6%、変化なしは75.1%という結果が報告されている。

(地震保険部 井谷孝之 平成12年3月記す)

引用資料

- 1) 神戸市震災復興本部総括局復興推進部企画課：「データこうべ～月別各種統計表～」平成11年度・NO.10、神戸市、平成12年1月
- 2) 自治省行政局：「住民基本台帳」平成6年版～11年版
- 3) 神戸市：「阪神・淡路大震災神戸復興誌」、平成12年1月17日
- 4) 神戸市：「第75回神戸市統計書」平成10年度版、平成11年3月
- 5) 総務庁統計局：「日本統計年鑑」平成12年版、平成11年10月
- 6) (財)神戸都市問題研究所長 新野幸次郎：「創造的復興のつどい 平成12年2月18日」配付資料